

ハリーン通信 Vol. 29



要望があった地区に不法投棄防止資材を配布しています。

各地区ではこの資材を、適所に置き、不法投棄防止に役立っています。



〔目次〕

- P1 不法投棄防止資材の活用の様子
- P2 不法投棄を許さない地域づくり 「不法投棄防止資材を配布」
「加西市坂元町地区」
- P3 不法投棄を許さない地域づくり
「寄稿 西脇市黒田庄町小苗地区 区長 津瀬 秀一 氏」
- P4 環境学習 「県立三木山森林公園で自然観察会」三木市立三樹小学校
- P5 環境学習 「小野市 子ども環境出前講座」小野市立下東条小学校
- P6 市町の取組「環境美化パトロール」 西脇市
「FOOD DRIVE (フードドライブ)」 加西市
- P7 団体の取組「増田ふるさと公園 ササユリ復活作戦」
NPO 法人 三木自然愛好研究会
- P8 団体の取組「全県一斉奉仕作業」
一般社団法人 兵庫県建設業協会北播磨支部
市町の取組「かとう COOL CHOICE ウィーク」 加東市



不法投棄防止地区に「不法投棄防止資材」を配布しました



毎年、不法投棄防止地区に対して不法投棄防止監視活動に係る資材の配布及び監視カメラの設置を行い、不法投棄防止に活用いただいています。

今年度も、要望があった58の不法投棄防止地区に不法投棄防止の立看板・監視カメラ・監視カメラ作動中の看板・センサー付ソーラーライト・ごみよけトリーなどを配布しました。



この不法投棄防止資材は管内の各所で活躍中です。

不法投棄防止地区の活動紹介 ～加西市坂元町地区



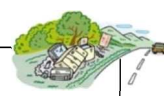
坂元町は加西市のほぼ中央の西側に位置します。市街地に近いものの田園風景が広がり自然豊かな地域です。昔からの住民が多く、少しずつ高齢化が進んでいるそうです。

県道117号と県道410号線が地区内を通り、県道沿いのため池の脇や、ゴミの集積場など死角になる道路の横にたびたび不法投棄があり、その都度、地区内の住民が片付けていました。

ゴミの中の物で、捨てた人が特定出来た時は、地区役員と一緒に不法投棄をしないよう指導したり、地元の警察官に協力してもらうこともあるそうです。



県道沿いにあるゴミの集積場。ドラム缶の中や外に不法投棄がありました。池の周辺にも捨てられていました。



地区では不法投棄の看板設置や、役員の方々の見回り、住民の方々の一斉清掃など、不法投棄をさせない地域づくりに努力をされてきました。

後藤区長は「なかなか不法投棄は無くならないけれど、監視カメラや看板を設置し、見回りをするなどして減らしていきたい」と仰っていました。





不法投棄防止地区の活動紹介 ～西脇市黒田庄町小苗地区～

寄稿 西脇市黒田庄町小苗地区 区長 津瀬 秀一 氏

西脇市黒田庄町小苗地区は、播州と丹波の境にあって県道 139 号線が集落内を東西に縦貫、北側に JR.加古川線。そして南側に加古川が流れる純農村地帯にあります。

当地区は高齢化率が 47.85%と黒田庄地区で最も高く、高齢化の波が自治会活動に少なからず影響を及ぼし始めています。



平成 30 年度に兵庫県の「不法投棄防止重点地区」に指定いただきましたが、それ以前は住居地域を少し離れた林間の側道部に多くの生活ゴミの不法投棄があり悩まされ続けてきました。

特に 12 月から 3 月の間、加古川堰堤入口部でテレビ等大型の家電製品や、自動車の古タイヤなどの不法投棄が頻発し、住民の通報により、市当局と連携して撤去対応してきました。



不法投棄防止のため地域で取り組んでいることとしては、現在役員 3 名体制で月 1 回の監視巡回活動を実施しています。

また、毎年 12 月中旬には地区衛生委員さんが中心となって住民全員による「クリーンキャンペーン」を催し、清掃並びに啓蒙啓発活動を実施、恒例行事として定着しています。

さらに、北播磨県民局からの不法投棄防止資材、『看板やごみよけトリー』を活用し、不法投棄防止の意識付けを行っています。



今後の課題として、これまでの活動は、捨てられたゴミを片付け現状復帰させることが主でした。これではなかなか不法投棄はなくなりません。

住民一人一人が住みやすい環境づくりのため、「不法投棄をしない、させない」という地道な住民運動を、今まで以上に強力に取り組むことが大切だと思います。

北播磨県民局より、配布いただいた啓発看板や資材、また啓発パンフレットなどは地区の住民の意識付けに大変役立つため、今後も定期的に配布をお願いしたいと思っています。



秋の深まりが少しずつ感じられるようになった令和2年10月30日。兵庫県立三木山森林公園において、三木市立三樹小学校3年生の「自然観察会」が開催されました。

学校から、徒歩で会場にきた子ども達は元気いっぱい、この「自然観察会」を楽しみにしていた様子が伺えました。



始めに三木山森林公園の職員の方から自然観察の際の注意がありました。

危ない生き物（マムシ、ムカデ、スズメバチなど）や触ってはいけない植物（ヤマウルシ、ヤマハゼ、ヌルデなど）を教えてくださいました。

その後ヘルメットをかぶり、説明者の講師4人と一緒に、4つの班に分かれて自然観察に出発！



池の横に「じゅずだま」がありました



絶滅が心配されるアカガエルがここで卵を産むようです



ススキを集めて作った家です



秋の七草「オミナエシ」！



針葉樹で紅葉するメタセコイヤ



三木山森林公園に来る野鳥をパネルで紹介しています



紅葉が始まっていました



秋の七草。「フジバカマ」！

広い園内を回りながら、植物や野鳥、生き物について説明を聞きました。

キツツキ、ゴジュウカラは木に垂直にとまることができ、木に穴をあけて巣をつくる。ヤマモモの木には赤い実がなり、火に強い。アセビは毒があるので鹿は食べない。ハキリバチは植物の葉を丸く切るのが特長。紅葉していたモミジバフウはモミジではなくフウの仲間で、色がとてもきれい、など。講師の方の言葉を、子ども達は一生懸命にノートに書いていました。



山の上のあずまやではみんなで「ヤッホ！」



観察会の終わりに今日の感想を発表しました。「どんぐりが欠けていてりすが食べたのかな？と思った。」「木や葉っぱや鳥のことなど知らないことを教えていただいてありがとうございました。」

最後まで元気いっぱいの3年生でした。





小野市 子ども環境出前講座



9月28日、小野市立下東条小学校4年生を対象に、小野市生活環境グループによる「子ども環境出前講座」が開催されました。

小野市「子ども環境出前講座」は2年前から小野市生活環境グループが行っています。



小野市立下東条小学校では、PTAによる「リサイクル下東条」という資源ごみ回収活動を行ったり、アルミ缶の回収場所を設置し、保護者や生徒達、地域の方々に協力をお願いしています。

子ども達にリサイクルの意識を持って欲しいとの思いから、この回収活動を行っています。



「子ども環境出前講座」は「生活するために必要なものは何でしょう?」という質問から始まりました。「食べ物、ごみ箱、ごみ袋、学校、病院、電車、バス」いろいろなものが出ました。が、ごみの処理は出てきません。

「ごみって何でしょう?」「要らなくなったもの」「汚れて使えなくなった物」

「お茶の入ったペットボトルは要る物? じゃあ空のペットボトルはどうかな」の質問に「要らない物だけど、リサイクルしたらまた使える。」と子ども達。

児童のみなさんに問いかけながら、話しは進んでいきました。



小野市はごみの処理に年間多くの費用を要し、資源の無駄使いをなくし、自然環境を守るため、8種類に分別をして出来るだけ再利用しようとしているそうです。



分別の話では、児童のみなさんにごみの分別を実際に考えてもらいました。

お茶碗→不燃ごみ・たまご→可燃ごみ・自転車→粗大ごみ。最後に一斗缶は?→(30cm以上の物)は粗大ごみになるそうです。

ごみを減らすことは難しいけれど、分別をして資源に戻していくこと、繰り返し使うことが大切です。みなさんがごみを減らす意識を持ちましょう、と締めくくられました。



最後に、小野クリーンセンターのごみ処理の様子を映像で見て「子ども環境出前講座」は終了しました。子ども達に囲まれてハリーンも嬉しそうでした。



市町の取り組み

西脇市

「環境美化パトロール」を実施しました

10月17日、西脇市保健衛生推進委員会、西脇市消費者協会、市民エコ会議、エコネットにしわき、くらしの安全・安心推進員の皆さんが、『環境美化パトロール』を実施しました。

市民の方々に環境保全を呼びかけ、西脇市の環境を守ることを目的に、毎年10月に環境省が取り組む『3R推進月間』と兵庫県が実施する『地球環境時代！新しいライフスタイル展開キャンペーン』に併せて実施しています。



西脇市保健衛生推進委員会の徳岡会長の挨拶の後、同委員会の方々と西脇警察署員が車で市内を巡回しながら、環境美化を呼びかけ、啓発活動を行いました。



さらにパトロールの後、参加者が市内のスーパーや、コンビニ、ホームセンターなど6店舗に分かれて、訪れる方々に街頭啓発を行いました。



お買い物に来られた男性の方は、「普段忘れていることも、こんな風に声をかけてもらえると、いらない電気は消した方がいいなとか、テレビの付けっぱなしもこれからは気をつけよう、とか思います。」

女性の方も、「買い物来ると、つい要らない物まで買ってしまって、あとで食べられなくなるので、今度からは必要なものだけを考えて買うようにしたいと思います。」と言われていました。



お孫さんと買い物に来られた方は「孫が学校でアルミ缶の回収運動をしていて、環境について話し合っているの、私もリサイクルできるペットボトルや食品のトレーは集めてスーパーの回収箱に入れたり、少しでも環境にやさしいことをするようにしています。」と話していました。

環境にやさしいライフスタイルへの転換への啓発をこのようなイベントを通して、住民の方々に呼びかけていくことが大切であると思いました。

市町の取り組み

加西市

FOOD DRIVE(フードドライブ)



フードドライブとは、家庭で余っている食品をごみにせず、それを必要とする福祉団体等に寄付する活動です。兵庫県ではこのフードドライブの活動を「ひょうごフードドライブ運動」として全県展開を図っています。この活動に管内の市町も賛同し、それぞれ活動展開されています。加西市では11月10日から12日の期間に市役所玄関ホールで食品等の寄付を受付け、共催のNPO法人フードバンクはりまを通じて必要とされている団体などに配布されました。

「ひょうごフードドライブ運動」に関心を持っていただき、ご協力をよろしくお願いします。



団体の取り組み



増田ふるさと公園 ササユリ復活作戦

NPO 法人三木自然愛好研究会



三木市細川町増田にある「増田ふるさと公園」には、なつかしい里山の原風景が今も残っています。三木自然愛好研究会は長年にわたり、この公園に生息する動植物の保全活動や観察会を行っています。

令和2年12月6日、ササユリ復活作戦（球根の植え付けと播種）が行われました。



参加者18名。今回植え付けをした球根は、会員2名がササユリの種を蒔いてから5年から7年かけて育てたものと聞き驚くとともに、美しい花が咲くまでにはまだまだ長い年月がかかることを実感しました。



5年～7年育てたササユリ
土の下に球根が出来ていま
した。



公園の東端の斜面にこの球根を植え付けました。



その後、ササユリの種を取りました。果実の中に、薄い羽のような種がありました。初めてみる種でした。

プランターにその種をまき、会員の方が、持ち帰って育てるそうです。大きく育て、この里山に帰ってきて欲しいと願います。

種まきの後で、公園内にある種の観察を行いました。

ヌスビトハギ、キンミズヒキ、アメリカセンダングサなど、衣服にくっつく種を実体顕微鏡で観察すると、カギ状になっていたり、とげになっていたりしてくっつく原因が分かりました。

また、リンドウは、萎んだ花の中で子房が成長して果実になり、その中の小さな種がユリと同じように風で飛んで行くことを知りました。

植物が生き残っていくために様々な工夫をしていることが分かりました。季節が変わるごとに増田ふるさと公園でさまざまな動植物が見られることを楽しみにしています。



果実から種を採取しました。



団体の取り組み

全県一斉奉仕作業



一般社団法人 兵庫県建設業協会北播磨支部

一般社団法人兵庫県建設業協会北播磨支部は、北播磨管内の建設業に携わる40社で構成されています。

社会基盤の整備や災害時の応急対応等を通して住民の生命と財産を守り、豊かで安全・安心な地域づくりの役割を担うとともに、地域社会に貢献していくという使命感を持ち、子ども110番の車パトロール事業や北播磨管内一斉奉仕作業、労働災害防止安全パトロールのほか、各種研修会などを実施されています。

令和2年9月1日、社会貢献活動の一環として、県が管理する道路河川等の公共施設への愛護活動「全県一斉奉仕作業」が実施されました。



管内の5市1町を会員の方々がそれぞれ分担し、県道沿いの清掃を行いました。

加東市では、担当される方々が兵庫県社総合庁舎駐車場に集合し、加東土木事務所長の挨拶ののち、加東市役所に移動、その周りと県道564号線沿いの清掃を行いました。



県道沿いの植え込みの中や、見えない所にペットボトルや空き缶などがあり、このような活動の大切さを感じました。

市町の取り組み

地球温暖化を防ぐために、今できる「賢い選択」 かとう COOL CHOICE ウィーク

加東市

加東市では、「脱炭素社会」の実現のために、環境負荷の少ない製品への買換えや、ライフスタイルの見直しなど、地球温暖化対策につながる「賢い選択」をしていこうという取組「COOL CHOICE」（クールチョイス）を推進しています。

そして、市民のみなさんにこの「COOL CHOICE」について理解と関心を深めていただくため、12月21日（月）から27日（日）まで加東市役所1階ロビーにおいて、啓発イベント「かとう COOL CHOICE ウィーク」を開催しました。



パネル展示



VRシアター



クイズコーナー



超小型電気自動車の展示

地球温暖化による様々な影響と家庭で出来ることのパネル展示や、仮想現実上で温暖化が進んだ地球の様子を体感することが出来るVRシアター、超小型電気自動車の展示などを行い、市民の方々に啓発をしました。VRシアターを体感された男性の方は、「将来のために、今出来ることを実行しないといけないと思いました。」と仰っていました。

ハリーン通信発行元

兵庫県北播磨県民局 県民交流室 環境課

電話 0795-42-5111 (内線 341)

創刊号から最新号まで、インターネットで見ることができます。

「北播磨県民いきいき情報」を入力し、検索してください。